

# 学力向上に向けた取組

## 1 課題

- 基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着
- 読書習慣の定着
- コミュニケーション能力の向上

## 2 課題解決の具体策

- ①家庭学習の習慣化
- ②チャレンジタイムの実施、放課後の時間を利用した補習体制の確立
- ③読書活動の推進
- ④スピーチ交流の実施

## 3 取組の概要

### ①について（家庭学習の習慣化）

各学級で家庭学習の習慣化を目指している。それぞれの学級で違いはあるが、主に復習を中心に取り組んでいる。発達段階に合わせ課題を与えることもあるし、児童の自主性に任せることもある。

### ②について

#### （チャレンジタイムの実施）

週4回チャレンジタイムを設定し、計算力の向上や漢字の読み書きの力を向上させるためにドリル学習に取り組んでいる。全学年コピー使用可能な問題集をそろえ、どの学年の問題でもすぐに作成できるように工夫している。今年度は、現在学習している内容を中心に復習に取り組むこととした。

#### （計算寺子屋の実施）

今年度から、新たな取り組みとして、月1回火曜日の放課後に「計算寺子屋」を始めた。これまで以上に教育効果を上げるために、教育課程外での取り組みを実施することとした。チャレンジタイムでは、現在の学習内容が中心であるが、この時間は、どの学年の学習でもすることができる。児童それぞれのニーズにあった設定が可能である。

### ③について（読書活動の推進）

読む力を身につけさせるために、読書量を増やすことを児童に勧めている。週1回水曜日に読書タイムを設定し、朝の授業前の時間に全児童が読書をしている。

11月には、読書月間を設定し、「読み聞かせ」「本の紹介」「感想の発表」など学校全体での取り組みをしている。

### ④について（朝のスピーチ交流）

研究部では、コミュニケーション能力について研究を進めている。今年度は、朝のスピーチ交流をすることとした。月1回3～4人が、交流学級へ行ってスピーチをする。毎回話す内容が決まっており、1人1分程度で話すこととした。



## 4 成果と課題

- 今年度から始めたスピーチ交流は、いい意味での緊張感を持って児童が取り組んでいた。相互評価を取り入れることによって回数を重ねることにスピーチが上手になっていった。
- 計算寺子屋では、予想以上にたくさんの児童が参加した。保護者と児童、そして教師側の意識が変わった。
- 家庭学習の取り組みで、家庭との連携を強化すること、課題の与え方・内容の充実、期限を守って提出することが難しい。
- 計算寺子屋では、希望制をとっているため、教師側から見て参加してほしい児童が参加しないことがある。